



Abitus Information

アビタス通信

Vol.5 January.2009

2009年、変動の時代におけるアビタスの役割

株式会社アビタス 代表取締役
三輪 豊明

2009年は米国のサブプライム問題に端を発する金融危機がいよいよ実体経済に波及する年になります。

株式市場、商品市場、為替相場と昨年の後半から私達はかつて経験したことの無い変動を見てまいりました。

実体経済も同様に、今まではありえなかった新しい現実に直面するかもしれません。

こうした中で、私達は目の前の状況に精一杯対応していかななくてはなりませんが、その一方で、混乱の中においても脈々と進行する大きな流れを見落としてはいけないと思います。では、この流れとは何でしょうか？ 三つの流れがあるかと思えます。

一つは国際化です。サブプライム問題は、世界同時不況という形で、世界が一体になっていることを文字通り体感させてくれる事件でした。また、サブプライム危機の影に隠れてしまいましたが、会計基準の統一化の流れが大きく前進した年でもありました。

米国がIFRS(国際財務報告基準)をとりいれるべく、自国基準であるUS GAAPを捨てる可能性までを表明したことは大きな事件であったと思います。EUが既にIFRSを採択している以上、日本もこの流れに逆らえないでしょう。

二つ目は、IT化の流れです。Saas、クラウド・コンピューティングという聞きなれない言葉が本年は浸透していくのではないのでしょうか。不況の波は企業のIT投資を鈍化させていますが、他方でこの不況をサバイブするため、コスト削減につながるIT投資はむしろ活発になるかもしれません。

そして、三つ目は、リスク管理の流れです。内部統制、あるいはコンプライアンスと言い換えてもいいかもしれません。サブプライム問題は、リスク管理体制の見直しを私達に突きつけています。また、先述したクラウド・コンピューティングが企業に浸透した場合、ITのリスク管理は益々大きな 이슈になるに違いありません。

私共は、こうした三つの流れに対応すべく、事業を展開してまいりたいと思います。

昨年立ち上げたIFRS certificate講座を、より多くの企業に浸透させていくことが一つ。そして、システム監査や、内部監査実務にフォーカスした研修メニューを拡充していくことがもう一つです。

特に後者につきましては、皆様方から現場の知恵を拝借しながら、よりよい講座をリーズナブルな価格で提供してまいりたいと思います。

アビタスのキャリアセンターは、
会計・監査における優れた人材をご紹介します

株式会社アビタス 人材事業本部 部長 熊谷 孝裕

会計・監査分野に特化しているアビタスの人材紹介事業における2009年の大きなトピックは2つあると考えています。

会計の分野では、社長の三輪も述べているIFRS(国際財務報告基準)の日本導入問題。2009年より本格的な検討段階に入っていきますが、その導入を見据えた人材確保が活発化すると予想されます。IFRS対応人材は、グローバルかつ専門的な会計知識と英語力が求められます。こうしたスキルを装備しているU.S.CPA(米国公認会計士)へのニーズはこれからさらに高まります。従来監査法人で経験を積んできたU.S.CPAホルダーが、ニーズに応えるべく事業会社様に移っていく、そ

の動きは2009年から活性化していくことでしょう。

アビタスの登録人材はそうした事業会社様のニーズにお応えできると自負しております。

監査の分野では、多くの上場企業様が本年3月期でJ-SOX初年度を終えます。次の2年目こそが「本番年度」という人もいほど、内部監査の質が問われる年になります。専門的知識をもった人材がさらに求められる年ともいえるでしょう。

アビタスはCIA(公認内部監査人)やCISA®(公認情報システム監査人)資格者のご紹介で、内部監査における質的向上のサポートをさせていただきます。

現場体験者が語る「内部監査部門の現状と課題」と「内部監査部門が求める人材像とCIA」

さる10月28日、アビタス銀座校において内部監査に関するパネルディスカッションが行われました。テーマは「内部監査部門の現状と課題」と「内部監査部門が求める人材像とCIA」。60名以上の内部監査部門、内部統制部門の方々に参加され、好評を博したこのパネルディスカッションの模様をご紹介します。

テーマ 1 ■■■

「内部監査部門の現状と課題」

課題はIT統制の取組みと監査のレベルアップ

竹野 内部監査に係る経験は属人的で、組織ごとに異なっているのが現状です。今回、この内部監査の“経験”というものを共有したいという思いで、パネルディスカッションを主催いたしました。

そのような観点から、事業会社2名様、コンサルティング会社と監査法人各1名様にご出席いただいています。まずそれぞれのご経験に基づき、「内部監査部門の現状と課題」について語っていただきたいと思っています。

新井氏 オリコンはグループ従業員250名規模（アルバイト含む）の会社で、ヘラクレス上場は2000年11月、上場から8年が経過しました。

私は内部統制室の室長ですが、この部署は昨年9月、J-SOX対応強化を目的として設立されました。現在、各部署からヒヤリングを行い、文書化3点セットを作成し、それを現場と共有し、整備状況評価を行っています（2008年10月現在）。フォーマットの標準化に加えてリスクコントロールマトリクス（RCM）についても部署毎に違いがありますので、それを統一化するという作業が大きな比重を占めています。

その際留意しているのは、現場に負担をかけずに、現場本位でいかに内部統制の整備を行っていくかという点です。

課題は、財務報告に係るITの統制をどの範囲まで行うかということです。J-SOXにおいて何がITとして認識されるのか。会計システム以外の部分をどう見て、どのように評価していくのか。手探り状態で進めているのが現状です。

岡本氏 私自身は内部監査部門にきて2年弱で、スタッフは23名です。今年の4月からとにかく忙しい職場で、少ないメンバーを有効に使って業務に取り組んで

【出席者】

オリコン株式会社 取締役内部統制室室長	新井 弦氏
日新火災海上保険株式会社 内部監査部	岡本 陽一氏
エス・シー・エス国際コンサルティング株式会社 内部統制グループ マネージング・パートナー	坂本 直弥氏
KPMGビジネスアシュアランス株式会社 執行役員マネージングディレクター	浅沼 宏氏
【司会・進行】 株式会社アビタス CIA専任講師	竹野 健太

いるのが現状です。

金融機関（銀行、保険会社）は金融庁の厳しい検査を定期的に受けています。この4半期単位の資産事項査定に加えて、J-SOXの評価作業があります。これが非常に大変で、いま主要業務で運用テストをやっている最中です（2008年11月現在）。これも皆かけもちでやっている状態です。

いま一番の課題は、リスクベースドアプローチについてです。現場と監査側との認識が違うケースが頻発しています。現場の認識と一致させ向上させるために監査のレベルをどのように上げていくか、部内で日々論議しているところです。

先ほどIT監査の話が出てきましたが、これはJ-SOXでは要の部分なので、監査を行なう人間もIT監査の経験がある専門家が必要です。そのため他部門の専門家を当該部長の承認を得て借用できるという私共の会社規定を部として初めて発動し、なんとか人材を確保しました。

変わりつつある 内部監査部門の立場と役割

坂本氏 私共は基本的に海外中心のコンサルティング会社ですが、現在はそれ以外に海外子会社の内部監査、



パネルディスカッション出席者の方々

内部統制の整備・運用の指導をし、またその評価のお手伝いを行っています。

多くの会社で内部監査部門研修のお手伝いをさせていただいていますが、教育を通じた内部監査部門の強化という共通の傾向にあると思います。極端に言うと社内に監査法人があるような雰囲気のある会社もあるほどです。

もう一つは、中堅クラスの方が内部監査部門に配属される傾向が目立ちます。監査を経験し、その後の経営に役立てていくという“登竜門”のポジションになりつつあるといえます。

海外子会社について話しますと、日本から監査人が来て、現地のマネージャーやコンサルティング会社と共に、日本での経験をベースに監査を進めていくといった時代になってきていると思います。しかしそのためには親会社が明確な指示を出さなくてはなりません。また海外に子会社を作る場合も、内部統制、内部監査を十分考慮しなくてはならなくなってきています。

上場会社であればやるべき事をようやくやり始めたということですね。

浅沼氏 私は、KPMGにおいてアドバイザリー業務を担当しています。具体的にはリスクマネジメント、内部監査、それからITリスク管理の支援等にも携わっています。

10年前は内部監査の話をして、「本当に必要なのか」という反応が多かったですね。

内部統制報告制度が契機となって、内部監査の仕事や役割が変わってきたのがここ2、3年。内部監査自体の社内の位置付けや貢献する業務というものが明確になってきています。

内部統制報告制度の本番年度ということで、今が佳境だと思いますが、この制度対応は今年だけで終わるのではなく、来年度以降も継続していかなければなりません。今後、制度への対応を通じた経験が蓄積されるに従って、内部統制の品質に対する目は、より厳しくなると思われます。

さらに、内部統制報告制度だけが内部監査の仕事ではありません。内部監査の方々が取り組むべき対象は多々あります。

例えば、経営者の目指されている事業プランや戦略をよく理解し、その実現のために社内は適切な仕組みがあるか、活動できているか等について、いかに効果的に監査するかです。これから求められるのは監査のクオリティです。

内部統制報告制度への対応だけでなく、内部監査への要求や期待が尽きることはありません。むしろ、制度対応という枠を越えることが要求される今後において、内部監査の役割の重要性がさらに高まることでしょう。



新井 弦氏
オリコン株式会社
取締役内部統制室室長

テーマ2 ■■■

「内部監査部門が求める人材像とCIA」

求められるのは「人間力」 現場で生きるCIAの知識

竹野 次に、いま内部監査部門が求める人材像、現場においてどんな人間が必要なのか。CIA資格はどのように有効なのか。現場の視点から語っていただこうと思います。

新井氏 内部監査部門が求めるスキルについて、4点挙げたいと思います。

一つ目は、何のために内部統制を構築するのかを常に意識し、それを現場に伝えていくスキルです。業務における有効性、効率性と関連付けないと現場は分かってくれません。二つ目は、業務監査の知識です。勘定科目の重要なリスクを認識した上で、どうコントロールしていくか。この点をつねに意識していくことが必要です。

三つ目に、俯瞰する力を持つこと。例えば私共の事業ではWEBメディア事業の収益が急速に伸びていますが、それ故リスクも高い。そのリスクコントロールを他の当事業とどう関連させていくか、そういった見方が重要です。

そして最後は人間力だと考えています。小手先の理論より、人間としてのコミュニケーション能力を磨くことです。

こうしたことを体系的に学べる点において、CIAというのは役に立つ資格であると考えています。

岡本氏 私共の会社では監査後、内部統制部がアンケートを行なっています。その中には「研修をしっかり受けて日本語の話せる人間を監査部に採用しろ」という凄く厳しい意見もありました。要するに監査部が一方向的に意見を言うだけで、相手の話を聞かないということです。

そのため監査部として監査を受ける側の負担感をまず考えることを心掛けるようになりました。相手の話をじっくり聞くことをしないと必ずクレームが来ます。

それと監査の品質を上げていくためにはCIAの勉強は非常に有効だと思います。監査が終わると部内で審査会を行うのですが、ベテランの内部監査スタッフは経験でモノを言うことが多く、時には場を混乱させる時があります。そうした時にCIA資格者の理論が場を収めることがあります。会計監査人との打ち合わせの時も、CIA資格は相手に信頼感を与え、コミュニケーションを円滑にしてくれます。

(次頁に続く)



岡本 陽一氏
日新火災海上保険株式会社
内部監査部部長

今後の問題ですが、私共の内部監査部は高年齢化しています。そうした現状に対し、社内から内部監査部で勉強し会社に貢献したいという若手が出てきています。そうした人達に期待したいですね。

高まる内部監査の貢献度とCIA資格者への期待

坂本氏 外部のコンサルタントとして内部監査、内部統制の支援をさせていただいている立場から、どんな人材像が求められているかをお話します。

監査とは英語ではAuditで、「話を聞く」という意味です。つまりAuditorというのは「話を聞く人」。これが基本だと考えます。次に、プロとしてここは譲れないというものを持ちながら、現場では協力していけるコミュニケーション能力が求められます。

「聞く力」「コミュニケーション力」、まずこの二つが必要だと思います。

内部監査の仕事をする場合、CIA資格は共通言語にあたります。個々それぞれの得意分野やものの見方の違いはありますが、共有する土台が必要です。それがCIAの知識といえます。さらに海外の企業（クライアント）から、内部監査チームの質を問われる時、CIA資格者がメンバーにいるということで信頼されます。CIAはCPAと同じ位に海外では認められている資格といえます。

さらに付け加えると、資格はベースです。「聞く力」「コミュニケーション力」といった人間力がプラスさ

れて、初めてこの資格が活きてくるということを強調させていただきます。

浅沼氏 私見ですが、内部監査は皆さんにとって比較的新しい領域だと思います。新しいことに取り組んでゆく、さらにはその歴史を自分で作っていくというようなチャレンジ精神が大切だと考えます。

このような仕事に敢えて挑むのですから、基本的な知識やスキルの習得がまずは必要となります。CIAを目指す勉強は体系的に勉強できる有効な方法だと思います。勉強するだけでも得るものがあるでしょうし、結果として資格を取得できれば、それも個人の価値になるでしょう。

CIAという資格は日本では認知されただけですから、CIAの歴史を皆様が創っていくわけですね。CIAの方々内部監査で良い仕事をするのが、CIAの価値を高めることになるのだと思います。

竹野 日本において、今はまさに“CIA創世紀”だと思います。そのためには、皆様に良い仕事をさせていただき、CIAの価値を高めていただくことを期待いたします。



坂本 直弥氏
エス・シー・エス国際コンサルティング株式会社
内部統制グループマネージング・パートナー



浅沼 宏氏
KPMGビジネスアシュアランス株式会社
執行役員マネージングディレクター

パネルディスカッションを終えて —アピタス CIA専任講師 竹野 健太—



今回のシンポジウムにおいて、実務家の方々が率直に内部監査の現状や課題を語っていただいたことは、今までこうした場がなかっただけに、大きな意義がありました。

あわせて参加者の方々からも監査の独立性や経営者の意識の問題など積極的な質問が出て、出席者とのディスカッションが行われたことも印象的でした。現場の方々が日々抱えている問題点を熱く語り合えたのではないかと思います。

これから新たな内部監査の歴史、CIAの歴史が始まる。そうした意識を、参加された方々は強く持たれたのではないのでしょうか。今後もこうした内部監査の現状や課題を、業種の枠を越えて語りあえる場を作っていく予定です。

アピタスの法人様向け研修プログラム

アピタスは創設以来、財務会計やファイナンス分野の研修を手掛けてきましたが、最近は内部監査、内部統制に関する研修が増えています。研修パターンは、初級者のための基礎研修から、企業様の実情にあわせたカスタマイズ研修、そして内部監査の国際資格CIA（公認内部監査人）コース等があります。

【内部監査・内部統制に関する法人研修プログラム】

	内部監査 基礎講座	内部監査 基礎講座	CIA（公認内部監査人） コース	CISA®（公認情報システム 監査人）コース
対象	内部監査部門スタッフ 新任内部監査人	新入社員 全社スタッフ	内部監査部門スタッフ	内部監査部門スタッフ システム関連部門
講座時間	約6時間	約2時間	約65時間	約30時間
受講形態	集合研修 eラーニング	集合研修 eラーニング	通学 （新宿・八重洲・大阪）	通学（新宿） DVD通信

第2回内部監査パネルディスカッション&交流会のお知らせ

テーマ「これからの内部監査部門に必要とされるITスキルと求められる人材像」

前回で好評をいただいた内部監査パネルディスカッションの第2弾を下記要項で開催いたします。コンサルタントや上場企業の監査部門など第一線で活躍される方々が、これからの時代に必要とされる内部監査部門とITスキルの関係について、意見交換を行ないます。システム監査の現場の声を聞くことができる貴重な機会です。パネルディスカッション後は、交流会を開催いたします。お問合せの上、ぜひご参加ください。

日時 2009年1月20日(火) 18:00-20:30 (17:30開場)

リード協賛 株式会社アクアシステムズ
株式会社エグゼソリューションズ
プラチナ協賛 株式会社エージーテック

●パネリスト (50音順)

浅沼 宏氏 (KPMGビジネスアシュアランス株式会社／
執行役員マネージングディレクター)

岡 健氏 (丸紅株式会社／ 監査部 副部長 CIA・CFE)

ジェラルディーン S.バートン氏 (エス・シー・エス国際コンサル
ティング株式会社／内部統制グループ シニアマネージャー MBA)

妻鹿 徹氏 (王子製紙株式会社／ 内部監査室 室長 CIA)

●モデレータ

竹野 健太 (株式会社アピタス／CIA専任講師)

内容 【第1部】 18:00-19:40

パネルディスカッション

「これからの内部監査部門に必要とされる
ITスキルと求められる人材像」

【第2部】 19:45-20:30

交流会※ドリンク・軽食をご用意しております。

会場 アピタス八重洲校

(東京都中央区日本橋3-6-2 日本橋フロント4階)

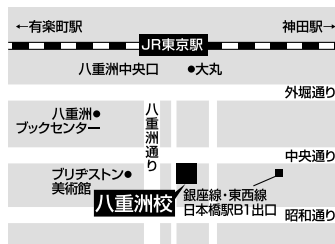
参加費 一般10,000円(税込) / アピタス受講者は8,000円(税込)

定員 100名(先着順。定員になり次第締切させていただきます)

お問合せ先

03-3299-3130

担当：河原・伊藤



JR東京駅八重洲中央口
徒歩5分
東京メトロ東西線・銀座線
日本橋駅 徒歩2分

Empowered by Innovation **NEC**



特権ユーザアクセス制御対応ソフトウェア

システム管理者の権限縮小！特権ユーザも例外なくアクセス制御！！

❖ 職制上の権限とシステム権限は同じではありません



職制上の権限
アクセス権

>



一般作業権



「人事情報」
「ユーザアクセス管理情報」
「ログ情報」もID
情報等へのアクセスは、
しるべき人員のみに限定

❖ 知らなかったでは済まされない。
特権ユーザ権限のリスク

内部統制(J-SOX)への対応が急務となっている中、ほぼ全てのシステムにおいて特権ユーザ(rootやAdministrator)は「システム全体への無制限のアクセス権」を保持したまま運用されています。

この権限は、システム運用において必要不可欠ではありますが、システムファイルの書き換えや削除など可能であるため、さまざまなリスクをもたらします。

**監査人も指摘する「特権ユーザ」の
不正利用のリスクに対するコントロール...**

**それはSecuveTOSの導入による管理権限の縮小と
強固なアクセスコントロールの実現！！**

この矛盾をどう解決しますか？

❖ 職制上の権限とシステム権限は同じではありません



職制上の権限
アクセス権

<



システム管理者
システム管理権
(一般作業権)



システム管理の権限を
使用することで、
「人事情報」「ユーザアクセス」
「ログ情報」などの機密情報へ
勝手にアクセスできてしまいます

❖ 知らなかったでは済まされない。
特権ユーザ権限のリスク

内部統制(J-SOX)への対応が急務となっている中、ほぼ全てのシステムにおいて特権ユーザ(rootやAdministrator)は「システム全体への無制限のアクセス権」を保持したまま運用されています。

この権限は、システム運用において必要不可欠ではありますが、システムファイルの書き換えや削除など可能であるため、さまざまなリスクをもたらします。

**監査人も指摘する「特権ユーザ」の
不正利用のリスクに対するコントロール...**

**それはSecuveTOSの導入による管理権限の縮小と
強固なアクセスコントロールの実現！！**

この矛盾をどう解決しますか？

NECソフトウェア東北株式会社

〒980-0811 仙台市青葉区一番町1-10-23 NECソフトウェア東北ビル TEL.022-213-9111(代) TEL.022-215-5636(事業推進部) URL <http://www.tnes.co.jp/>

内部統制におけるデータベース監査の位置づけ

株式会社 エグゼンソリューションズ

データベース監査とは

データベース監査をご存じでしょうか。内部統制の要件として監査法人に指摘を受けることでデータベース監査に取り組まれるケースが増えています。その中で、データベース監査によって取得されるログがどのようなものか、ログとして何が必要かという「機能的」な要件は理解されるようになってきました。

しかし、データベース監査が実際に内部統制構築の中でどのように役立つか、運用までを見据えた上で何をしていかなければならないのか、といったデータベース監査を行う「目的」はあまり論じられていないようです。事実、ログを収集したがそれをどのような形で報告書にしていけるのか、というログ活用の問題から、大量ログの対処に困っている、といった問題に多くが直面しています。これらはそもそもの目的が見えないために引き起こされたものと言えるでしょう。

データベース監査の目的

データベース監査の目的を考えるには、リスクコントロールの視点が必要です。どのようなリスクがどこに存在するのかを評価することで、データベース監査がどのようにコントロールとして役立つかが見えてきます。データベースに起因する、あるいはデータベース層のみで捕捉できる事象については、必ずデータベース層で対策をとり、アプリケーションやネットワークでの制御機能が十分でない場合、それを補完する機能、最終的に担保する対策として、データベース監査を考えれば間違いはないと思います。

DBA・特権ユーザの操作、特にネットワークを経由しない直接の操作、アプリケーションやネットワーク層でのフィルターをすり抜けてしまう不作為行為（SQLインジェクション等）などは、ほぼデータベース監査によって対応すべきものと考えられるでしょう。

【統計レポート例】



また、データベース監査は発見的（検知）コントロールですが、特に内部統制の際に課題となるDB管理者・特権ユーザの行為に対して、抑制効果が期待できる防御的（予防）コントロールともなります。もちろん、データベース監査がすべてではなく、リスクを評価した上での必要な対策として存在します。

データベース監査の機能的要件

データベース監査を導入するにあたっての機能的な要件をここでおさえておきましょう。データベース監査はデータベースでどのような行為がなされたか、という操作履歴（ログ）を取得し活用するもので、以下の3つの要件が特に重要です。

1. ログの保管および管理
2. 必要なログは完全に取得できること
3. ログが必要な時に参照できること

セキュリティのCIAと同様、ログにも“CIA (Confidential, Integrity, Available, Auditable)”が必要となります。さらにデータベース監査システムとしては、定期的な見直しを考えた運用のために、維持管理性を加えなければなりません。

実績のあるエグゼンソリューションズの監査製品

これらの要件を考えると、既に実績のあるツールの活用が有効であると言えます。

弊社では、多くの企業で実績のある下記2つの製品をご提供しております。

1. Oracle向け監査製品「Audit Master」
2. SQLServer向け監査製品「SSDB監査」

導入期間と運用コストの大幅な削減も可能です。内部統制の構築と有効性維持のためにデータベースの可視化を容易かつ効率的に実現するデータベース監査製品の活用は、多くの企業にとって有効な対策と言えます。

【一覧レポート例】



本年9月上場のサニーサイドアップ様に、 内部監査専任スタッフをご紹介します



株式会社サニーサイドアップ
管理本部 総務人事部 部長

吉川 和弘氏

上場を機に、内部監査室を強化

—今回の採用に至るまでの経緯をお聞かせください。

吉川氏 私共の会社は、今年の9月5日にヘラクレスに上場しました。その2年前位から上場を視野に入れて、内部統制の構築、内部監査室の設置などを管理本部が中心となって進めてきました。今回の上場を機に内部監査室を強化させるため、専任スタッフを配置することとなり、アビタスに相談したという次第です。

—何故アビタスを選ばれたのですか。

吉川氏 内部監査スタッフが必要となった時点で、様々な人材会社を探してみたのですが、なかなか該当する人材を揃えた登録会社が見つかりませんでした。ある時、投資会社のニュースメールで内部監査にまつわる人材を紹介しているアビタスの存在を知りました。5名の方を紹介いただき、今年9月に1名採用させていただきました。

未経験でも内部監査の仕事に 意欲的な人を採用

—採用に際しての条件は？

吉川氏 最初は経験者を希望していたのですが、希望した人材の確保が見込めないようなので方向転換し、未経験でも内部監査の仕事に高い意欲を持った人物であれば視野に入れることにしました。

今回採用したのは30歳の女性で、内部監査の仕事に携わりたいという目標をもって登録されていた方です。

—未経験者をどのように育成されていかれるのでしょうか。

吉川氏 私自身、2年前にこの会社に転職し、前任の室長をサポートし、退任後内部監査室長として経験を積んできました。また内部統制の構築・整備にも携わってきました。この経験を伝えると共に、外部の監査法人・コンサルタント会社によるサポートも与えています。さらにアビタスのCIAコースを研修の一環として受講させています。

内部監査の仕事は 強いモチベーションが必要

—内部監査の仕事で大切なことは何でしょうか。

吉川氏 この仕事は強いモチベーションを持つことが大切だと考えています。今回採用した方は、CIAの学習を通して、内部監査の専門性を極めていこうという意識と内部監査の実務から学ぶことを継続的に高いモチベーションで行っています。

—最後に内部監査にも関わることですが、御社におけるJ-SOX対応はどのような状況でしょうか。

吉川氏 弊社は6月期決算のため、他の上場企業に比べて3か月余裕があり、他社の事例を参考にすることも可能かもしれませんが、既に内部統制の構築・整備・運用の段階は終わり、評価の段階に入っております。

新人の内部監査スタッフには、活躍を期待しています。

【登録者の一例をご紹介します。】

年齢 性別	最終学歴	英語力	保有資格	経験職種				略歴
				金融	経理 財務	監査 コンサル	内部監査 内部統制	
45 女性	東京国際 大学	上級 レベル	U.S.CPA	3年		4年半	3年	外務省と大使館での勤務を経て、U.S.CPAの勉強に専念。合格後、総合系コンサルティング会社で4年半経験後、出向先にて内部監査に4年間従事。
44 男性	東京大学 (読み書きレベル)	中級 レベル	公認会計士、 税理士			9年		公認会計士試験合格後、BIG4監査法人で9年間監査業務等に従事した後、移転価格、M&Aアドバイザー、US GAAPへのコンパリエンス等に従事。
36 男性	慶應義塾 大学	上級 レベル	CIA		8年		1年	税理士事務所等で決算業務、申告業務等を経験後、管理会計3年半、主計3年の経験。また、税務、内部統制、BPR、SAP導入等にも従事。
36 男性	慶應義塾 大学 (読み書きレベル)	中級 レベル	U.S.CPA、CIA	13年			2年	13年間大手生命保険会社にて融資・営業・財務・海外業務等に従事。直近1年半は課長補佐として内部監査・J-SOX対応・金融庁対応に従事。
34 女性	中央大学 (読み書きレベル)	中級 レベル	日商簿記2級	3年半		7年		金融機関でバックオフィスを3年半経験後、コンサルティング会社で連結決算や開示資料の作成に7年間従事。現在は出向先の内部統制に従事。
28 男性	一橋大学	初級 レベル	公認会計士			5年		中堅監査法人で金融法定監査、SPC関連を3年ほど経験。現在は会計事務所で金融商品のストラクチャ、監査、評価業務まで約1年半従事。
33 男性	慶應義塾 大学	上級 レベル			9年			日系大手メーカーにて9年間、決算業務、原価計算、管理会計、財務等に従事。内6年間はマニラの現地法人に勤務し会計部門の統括を行う。
31 男性	同志社 大学	上級 レベル	U.S.CPA、 日商簿記1級	3年		2年		金融機関の営業に3年、リスク管理業務などに2年間従事した後、大手監査法人にて2年間、金融機関をクライアントに監査業務に2年間従事。
35 男性	専修大学	上級 レベル	U.S.CPA		8年			外資系企業にて1年半経理経験後、日系大手メーカーの本社経理として6年間グループ各社の経理・損益集計、連結決算、開示業務等に従事。
35 男性	専門卒 (読み書きレベル)	中級 レベル	U.S.CPA	4年				事業会社2社にて経理財務業務を4年間経験。決算(連結含む)・予実管理・固定資産管理・税務補助等に従事。

CIA合格者のためのCPE（継続教育） オンライン講座のご案内

—ご自宅で廉価でCPE単位が取得できます—

公認内部監査人（CIA）合格者は、その専門性と能力の継続的向上をはかるべく、継続教育（CPE: Continuing Professional Education）が義務付けられています。例えば、内部監査実務に従事している場合、2年ごとに80CPE単位（1CPE単位＝講義50分）の取得が必要になります。*

約600名の合格者を輩出しているアビタスでは、アンケート調査をもとに、ローコストで、様々な受講形態（ライブ講義、eラーニング）により、幅広い分野を網羅するCPE講座をスタートしました。もちろん、講義のクオリティも当校ならではの水準となっています。

ラインナップも拡充してまいりますので、是非ともお試しください。

*CPEは合格年を含めた2年間は免除されます。例えば、2007年実施のCIA試験で合格された方は、2009年よりCPE単位取得が義務付けられます。

アビタスCPE講座につきましては、弊社法人担当、
あるいは下記までお問合せください。
TEL 03-3299-3222
e-mail cpe-faq@abitus.co.jp

■ 講座一覧（一部） ■

分野	講座名	受講形態	CPE単位
財務会計、管理会計 (8講座リリース済)	棚卸資産（低価法、原価法、売価還元法）	eラーニング	3
	投資（投資有価証券の分類と評価、減損処理など）	eラーニング	3
	リース（オペレーティングリース、ファイナンスリース）	eラーニング	3
監査、内部統制 (4講座リリース済)	現金、売掛金に関する業務管理プロセス	eラーニング	3
	手形、貸付金等に関する業務管理プロセス	eラーニング	3
	固定資産等に関する業務管理プロセス	eラーニング	3
IT監査、セキュリティ (1講座リリース済)	IT監査（概論）	eラーニング	12
	利用者認証とアクセス権限の監査	ライブ	3
	情報流出対策の監査	ライブ	3
コンプライアンス	コンプライアンスの基本論・総論	ライブ/ eラーニング	3
	ビジネスコンプライアンスと法	ライブ/ eラーニング	3
	コンプライアンス違反と制裁・救済手段	ライブ/ eラーニング	3

千葉商科大学会計専門職大学院と提携

アビタスでは、内部統制、内部監査分野における専門人材を育成すべく、千葉商科大学会計専門職大学院と業務提携をいたしました。

本提携により、同大学院では、CIA（公認内部監査人）コースとCISA®（公認情報システム監査人）コースの内容をベースに再構成した「内部監査概論」を、2008年秋学期より開講。当校代表の三輪が客員教授として教鞭をとっています。（2009年4月からは、IFRSコースも大学院科目に組込まれる予定です。）

また、同大学院生は、アビタスのキャリア事業部によるキャリア・カウンセリングなどの就職支援を受けることができます。

他方、アビタスの卒業生*（U.S.CPA、CIA、CISA®資格取得者）は、同大学院の指定機関入試を受験することで、筆記試験が免除になります。特にU.S.CPA資格取得者は、科目単位認定制度を利用することにより、働きながら1年間でMBAを取得することが可能です。

*アビタスからの推薦状が必要になります。

■ 各種プログラム、法人向け研修コース、人材紹介に関するお問い合わせ

各種プログラム
TEL：03-3299-3330
担当：遠藤
info@abitus.co.jp

法人向け研修コース
TEL：03-3299-3130
担当：高橋
training@abitus.co.jp

人材紹介、キャリアセミナー
TEL：03-3299-3666
担当：熊谷
career@abitus.co.jp

■ アビタス通信に関するお問い合わせ

株式会社アビタス 広報担当 笹原 abituss@abitus.co.jp
東京都渋谷区代々木2-1-1 新宿マインスタワー15F TEL：03-3299-3223

株式会社アビタス
<http://www.abitus.co.jp/>

【新宿】〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-1-1
【八重洲】〒103-0027 東京都中央区日本橋3-6-2
【大阪】〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田2-5-2

新宿マインスタワー15F
日本橋フロント4F
新サンケイビル8F

TEL：03-3299-3330 FAX：03-3299-3777
TEL：03-3278-8800 FAX：03-3278-8801
TEL：06-6341-1020 FAX：06-6341-1088